

山の手だより

No
24

北海道胆振東部地震 災害時の取り組み



北海道医療センターでは9月6日の発災後に災害対策本部を立上げ、24時間体制で災害拠点病院の使命を果たしました。(写真：定期的に行われた全体ミーティング)



TAKE FREE
ご自由にお持ち帰りください

24号目次

巻頭言「北海道胆振東部地震への 対応についてご報告とお礼」	北海道医療センター院長 菊地 誠志	2P
院 外 活 動		4P
院 内 活 動		5P
いきいき三角山フェスタ開催報告		6P
医師の救急現場への派遣に 関する覚書締結式		8P

まいにちから、
まんいちまで。

北海道胆振東部地震への対応についてご報告とお礼



北海道医療センター
院長 菊地 誠志

9月6日深夜3時7分に胆振地方東部を震源として地震(北海道胆振東部地震)が発生し、直後、北海道全域が停電となりました。亡くなられた方々のご冥福をお祈りすると共に、いまま避難生活を送られている被災者の方々については、一日も早く落ち着いた生活に戻ることができるよう切に願っております。

この度の地震・停電への対応では、職員と患者さんおよび地域のみなさんの多大なるご協力により、災害拠点病院としての使命を十分に果たすことができました。

まずは、暗闇の中、深夜・早朝にいち早くかけつけてくれた職員のみなさん(徒歩、自転車、ヒッチハイク)のプロ意識に感動しました。災害対策本部による迅速かつ統制のとれた対応は、救命救急副部長らによる日頃の準備と訓練の賜物と云えます。

周辺医療機関から特に絶大な賛辞をいただいたのは、人工呼吸器装着患者さんおよび透析患者さんへの対応です。人工呼吸器装着患者さん23名を受け入れた塩谷医師・井上医師・網野医師と、受け入れ病棟の看護スタッフのみなさん、ありがとうございました。当院医師の「ハイ。すぐ送って下さい」に在宅診療の先生は感激していました。透析患者さん77名を受け入れてくれた腎臓内科医師と透析室スタッフのみなさん、深夜までお疲れさまでした。伊藤医師は、自転車で周辺の透析医療機関巡回という画期的な活動をしてくれました。そして、これら人工呼吸器、透析への対応を可能にしてくれたのが臨床工学士のみなさんでした。ここに述べた以外にも、各部門を巡って収集したみなさんの奮闘ぶりは枚挙にいとまがありません(一部を、本誌上でご紹介しています)。

今回、DMAT本部(札幌医科大学に設置)との情報交換はありましたが、札幌市あるいは北海道全域を網羅する統一的、組織的な災害対応システムに則って行動したわけではありません(特に停電対応)。そもそも、それらのシステムが、あらかじめ存在していたわけでもありません。ほとんどは、地域ネットワークの「互助の底力」で対応できたのだと思います。

今回は、これで良かった。直下型地震だったら、冬期間であつたら、どうする。これを機に、災害弱者(避難行動要支援者)の実態把握と、個別避難計画作成、避難訓練を実施する必要があります。個人情報、プライバシーの問題もあろうかと思いますが、関係諸機関が患者さんの最新情報を共有できるよう、行政が主体となって活動を開始してほしいと思います。当院も協力を惜しみません。



一方で、当院の設備に、いくつか課題も見つかりました。これらについては、国立病院機構本部の支援の元、解決に向け迅速に対応することが可能になりました。災害に一段と強い北海道医療センターになります。

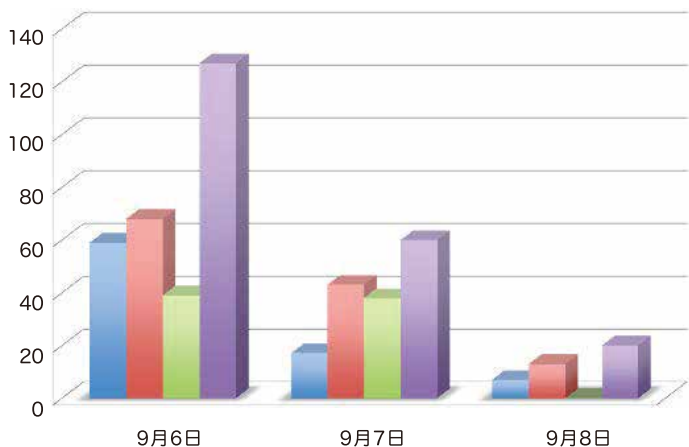
そして、最後に、ご協力いただいた患者さんにお礼を申し上げなければなりません。予定検査・予定手術の延期、一時退院、早期退院、入院延期、外来受診制限などにご協力いただきました。北海道医療センターが任務を遂行できたのは、患者さんを含めた「北海道医療センター」チームの活躍と成果であったと思います。

なお、災害で精神的に大きなダメージを負った方々への「こころのケア」のため、現在も、当院精神科チームが胆振東部地域に通っています。改めて、いまま避難生活を送られている方々に、平穏な日々が一日でも早く戻ってくるよう心から願っております。

発災後3日間の外来受診状況及び在宅療養患者受入状況

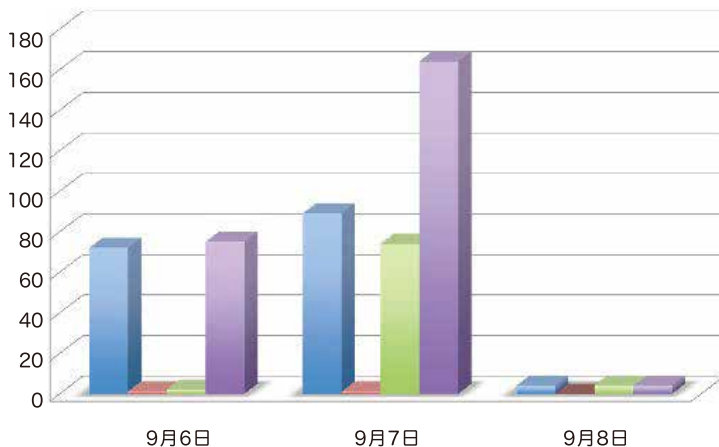
救急外来の受診状況

■ 救急搬送 ■ Walk-in等 ■ 透析依頼 ■ 救急患者総数



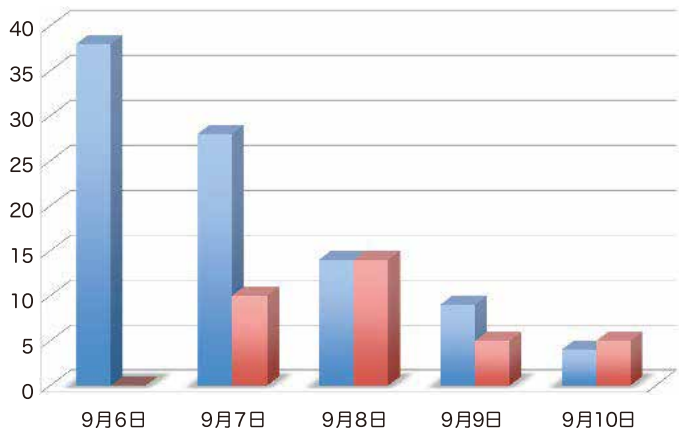
一般外来の受診状況

■ 処方 ■ 注射 ■ 診察 ■ 総数



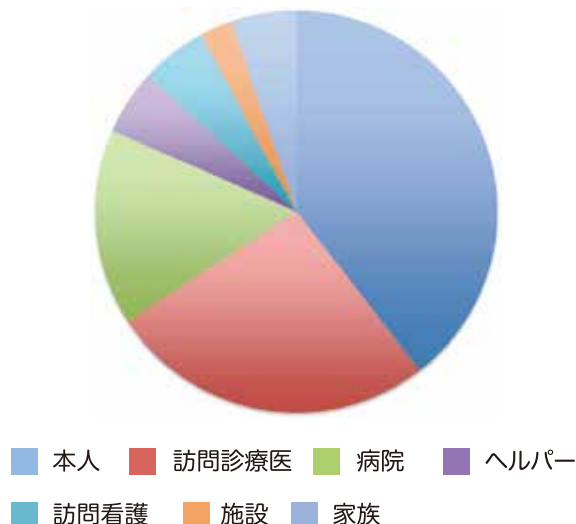
9月6日在宅療養患者38人の受入

■ 入院(在院) ■ 退院



在宅療養患者の入院依頼元

入院依頼元(全38件)



北海道医療センター院外活動報告

北海道胆振東部地震における当院DMATの活動

// 統括診療部救急科 診療看護師 藤岡 純

今回発生した地震において当院所属のDMAT隊は発生直後より当院に参集病院の機能が維持されているか確認し院内災害対策本部と連携し院内の診療機能維持や患者受け入れ活動をスタッフ連携して実施。院外へ出動した隊は西区管内の病院施設の医療ニーズや病院機能の状況の把握の実施。

人工呼吸器患者様、透析患者様の搬送業務。DMAT札幌医療圏活動拠点本部の本部活動を実施しました。

一部隊員は道庁の調整本部での本部活動も実施しました。

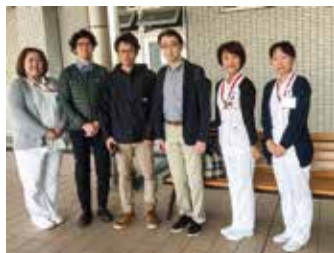


北海道胆振東部地震における当院心のケアチームの活動

// 医療社会事業専門員 坪内 雅行

道庁の要請により、平成30年10月16日及び17日の2日間北海道医療センターこころのケアチームとして、北海道胆振東部地震により家屋の崩壊、ライフラインの断絶等避難所生活を余儀なくされている被災者の方々の、被災による精神的ケアと避難所生活の長期化に伴う心労等、心のケアを必要とする方々の相談支援活動をむかわ町、厚真町、早来町の避難所で行いました。

1日目は上村恵一精神科医長、工藤裕太看護師、坪内精神保健福祉士の3名1チームでむかわ町にて2件の患者相談と保健師からの相談に対応し、2日目は菊地未紗子精神科医師、佐藤久美看護師長、坪内精神保健福祉士の3名1チームで厚真町、早来町にて3件の患者相談を行い2日間の活動を終わりました。



北海道胆振東部地震における当院初動医療班の活動

// 庶務班長 毛内健二

北海道胆振東部地震の発生から5日目の9月10日、震源被災地への医療支援を行うべく、私たち初動医療班5名(米村消化器内科医師、佐々木副看護師長、大橋副看護師長、藤本薬剤師、毛内庶務班長)は9月14日までの日程で厚真町現地災害対策本部へ向かいました。

現地対策本部では時折余震が発生する中、各地から集まった自衛隊、DMAT、日赤医療班チームなど多くの救護スタッフと共に各避難所の情報を共有しました。

私たちの医療班は、むかわ町穂別地区(旧穂別町)5箇所の避難所訪問を任せ、各避難所の被災者へ声をかけながら、避難所の環境や医療支援ニーズなどを聞き取りました。

また、地元保健師さんからの情報提供を受け避難者の診察を行いました。



北海道医療センター院内活動報告

北海道胆振東部地震における透析診療について

// 腎臓内科医長 柴崎跡也

慢性腎臓病のために週3回血液透析を行っている方が、北海道では、約1万5千人います。

血液透析を行うためには、電気と水が必要になりますが、この度の震災では、全道全域がほぼ停電になったために、透析できない施設が多数発生しました。また前日の台風21号による停電で透析できない施設もありました。当院は非常用電源を用いて透析治療を行うことができる状態でしたので、当院に通院中、入院中の患者さんは全員透析を行うことができました。全道の災害拠点病院で透析可能な施設は、近隣の透析ができない施設からの要請により透析患者さんの受け入れを行いました。

当院にも透析患者さんの受け入れ要請があり、9月6日、7日において、数多くの外部の透析患者さんの透析治療を当院で行いました。幸いにも8日には、札幌市内のかんりの透析施設が透析可能となったため、受け入れ要請はありませんでした。今回外部からの透析患者さんを数多く受け入れて、事故なく透析治療を行うことができました。今後は外部の透析施設の状況を把握する方法を改善し、スムーズな患者さんの受け入れ、治療ができるような対策を立てていく予定です。



第6回 /



いきいき 三角山 フェスタ

開催
しました!!

9月1日(土)、前日まで心配されていた悪天候は一転し、晴天の下、いきいき三角山フェスタを開催しました。

今回は、新しい試みとして産直野菜販売「いきいきマルシェ」のブースを設置しました。当日の朝収穫したトウモロコシや枝豆など、たくさんの新鮮野菜の販売に、来場者も職員もみな大喜びでした。

もう一つの新しい企画として、『2人に1人はがんになる!西区の住民をがんから守りたい』というキャッチコピーで、5人の医師の講演によるがん市民公開講座を開催しました。

ステージイベントでは、当院職員が所属しているフラチームのフラダンスショー、当院JNP藤岡純さんによる講演「災害にあってしまったら」、手足が不自由でも座って踊れるチェアフラ、琴似中学校の吹奏楽部のみなさんによるアンサンブルコンサートを企画しました。来場者のみなさんはステージで繰り広げられるフラダンスと一緒に踊ったり、アンサンブルの曲を口ずさんだり、心癒やされるひとときを過ごされたと思います。

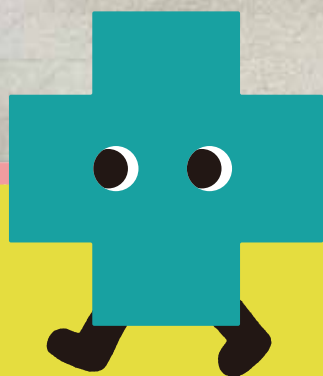
今回のいきいき三角山フェスタを開催するにあたり、広報ツールとして新聞折込みチラシ、ホームページはもちろん、FACEBOOK、Instagramを活用しました。残念ながら、それぞれの効果を計ることはできませんでしたが、結果として670名の来場者を迎えることができました。

北海道医療センターでは、今年7月に初めての病院機能評価を受審し、その直後の開催ということで準備不足の側面もありましたが、無事に開催し終了することができました。ご協力いただきました企業の皆様、職員の皆様に感謝申し上げます。

(いきいき三角山フェスタ実行委員会事務局 菊地正子)



たくさんのコーナー 大盛り上がり!!



たくさん
来てくれて
ありがとう!

医師の救急現場への派遣に関する覚書締結式

2018年8月30日に、北海道医療センター医師の救急現場への派遣に関する覚書締結式が札幌市消防局長ご列席のもと当院で行われました。

札幌市ではこれまで4つの三次医療機関でドクターカーが運用されていましたが、9月3日より北海道医療センターも参画することになりました。



まいにちから、
まんいちまで。

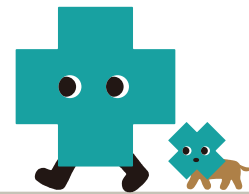


独立行政法人 国立病院機構

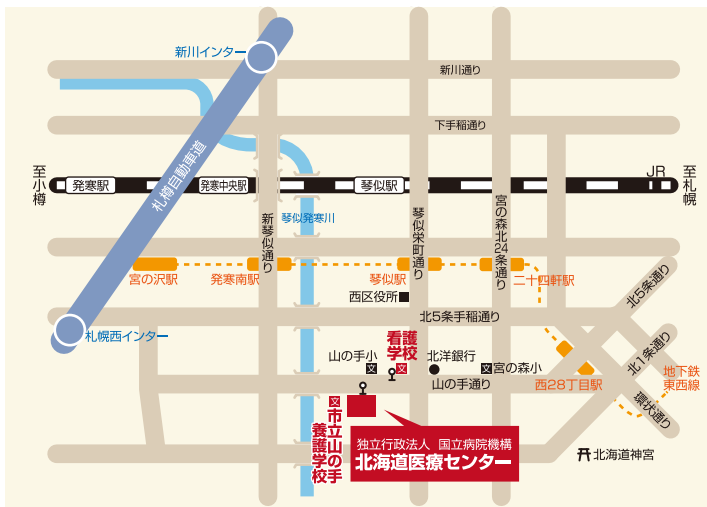
北海道医療センター



TEL 011-611-8111



〒063-0005 札幌市西区山の手5条7丁目1番1号



●交通のご案内

- 地下鉄東西線**
西28丁目 …… 循環西21 山の手線 北海道医療センター前 下車
 …… 西21 山の手線 北海道医療センター前 下車
- 地下鉄東西線**
宮の沢駅 …… JRバス 西21 山の手線 北海道医療センター前 下車
- 地下鉄東西線**
琴似駅 …… JRバス 琴43 西野中州橋線 北海道医療センター前 下車
- JR**
JR琴似駅 …… ■タクシーご利用の場合
 ◎JR琴似駅より…約1,200円前後
 ◎地下鉄琴似駅より…約1,000円前後
- 車で** …… ■旭川・苫小牧方面より自動車ご利用の場合
 札幌自動車道新川インターから
 新琴似通り経由、山の手通り沿い
 ■小樽・余市方面より自動車ご利用の場合
 札幌自動車道札幌西インターから
 北5条手稲通り、新琴似通り経由、山の手通り沿い

<http://www.hosp.go.jp/~hokkaidomc/>

北海道医療センター

検索



発行所 / 独立行政法人 国立病院機構 北海道医療センター
 発行責任者 / 事務部長 田村 優
 発行日 2018年11月

札幌市西区山の手5条7丁目1-1
 電話(011)611-8111 / FAX(011)611-5820
 ホームページ <http://www.hosp.go.jp/~hokkaidomc>